

竜王東小学校 学校関係者評価書

竜王東小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

ご意見をいただいた方：(学校関係者評価委員)

学校評議員：佐野泰子，三井弘文，加藤富美子，石田冬子，清水 勉

保護者代表：伊藤 毅 (PTA 会長)，川口 恵美 (PTA 副会長)

学校関係者評価としてまとめに関わった職員 校長，教頭，教務主任

I 学校側から提案された内容

- ・学校の概要，学校の教育活動について
- ・学校評価の説明及び過年度との比較及び考察

II ご意見をいただいた主な内容

①学校評価の結果について

- ・教師用・児童用・保護者用アンケート結果と考察
- ・地域や家庭での児童の生活実態について
- ・今後の課題について

②学校教育に関する事項について

- ・指導内容の増大と学校における「働き方改革」の取り組みについて
- ・基礎・基本の定着と学習の充実について
- ・感染症の影響による地域との連携の課題について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

・教職員の自己評価の結果は，ほとんどの項目で肯定的評価（AまたはB判定）の割合が96%を超えており，評価の平均値も大部分の項目で8.8ポイントを超えている。学校経営方針に基づき，学校教育目標の具現化に向けて，教職員の十分な理解のもとに教育活動が行われていると考えられる。

・児童アンケート，保護者アンケートの結果についても，ほとんどの項目で評価の平均値が8.0ポイントを超え，学校の教育活動が適正に行われた結果，児童が学校生活を楽しみ・充実していると考えており，保護者からも一定の理解を得られていると考えられる。

・職員全体が，学校評価での課題をしっかりと受け止め，改善に向けて取り組んだため，自己評価の点でも改善が見られ成果が出ていることが分かる。

II 特 徴

・教職員の自己評価、児童アンケート、保護者アンケートの結果はいずれも甲斐市全体の調査結果とほぼ同様の結果となっている。他の学校と比較しても竜王東小学校では適正な教育活動が行われており、児童や保護者からも一定の評価を得ていると考えられる。

・学習に関する児童アンケートでは「先生はよく勉強を教えてくれる」の評価は「よく教えてくれる」と「教えてくれる」の評価は良好で、ここ数年大きな変化はない一方で、「算数の授業の内容がわかりますか」の項目についての評価が伸びてこない。授業の中で、お互い意見を交換し合い、みんなで考えを練り合う必要があるのかもしれない。そのためには「人前でしっかりと自分の意見を言うことができる」必要がある。児童の意識でこの部分が低いことと関係が深いかもしれない。平素より「話すこと」の取り組みに力を入れている教職員も増えてはいるものの、思うように指導の成果が出ていないのはそのせいかもしれない。「児童の意識を変える」指導の改善に向けた研修・研究に力を入れていく必要性を感じた。

・学校の特色であるノーチャイム制、オープンスペースなど充実した施設・設備を活かした活動に力を入れていることが良い。特に、ノーチャイム制は児童の自主性が育ち、考えて行動する力がつきとてもよいことだと思う。学校教育目標にも適っている。これからも特色のある活動の継続を望む。

III 今後の課題として意識されたいこと

○学校教育目標の達成状況について

・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、予防措置をとりながら学校の教育活動を行っていた。そんな中、校長のリーダーシップのもと職員が一丸となって多岐にわたり細かな計画のもと丁寧に教育活動を行っている様子が見られた。また、一人ひとりが共通理解と情報共有をしっかりと行い、そのなかでお互いをカバーし合う協働する意識が高いことを感じた。

新学習指導要領で指導内容が大幅に増大する中、今までの働き方では、今後続かないことを知ることができた。「働き方改革」については、これから必要なことだと感じた。進めてほしい。

○基礎・基本の定着と学習の充実について

・改善策に書かれているとおриだと思う。子どもたち一人ひとりがしっかり学習内容を理解するために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、子どもたちに基礎基本の定着について取り組んでほしいと思った。

学習は「基礎・基本の定着」が大事だと思います。そのためにも改善策の項目は期待している。

○地域と今後の連携について

コロナ禍となり3年が経った。地域とともに行える教育活動が以前に比べ大幅に減少した。地域の住民が学校を訪れ学校の様子を見たり、学校ボランティアとして教育活動に参加したりすることが出来なくなった。現状、地域の住民も地域での活動も大きく制限される中、学校とのつながりも薄くなるのは仕方ないことだと思っているが、このまま衰退していくことについては危惧している。

今年度も学校からの発信はHPが中心となったが、保護者以外の住民は、その存在を知らない人が多い。地域に回覧板を回しても効果が薄い。やはり、コロナの影響はあるものの感染対策をしっかりとる中で、学校開放など、学校へ来校できる手立てを推進することがよいように感じた。今後は、多くの機会に、地域の方々が学校の教育活動へ参加出来るような体制を整えていく必要があると感じる。来年度は、学校の状況も考える中、今までとは違ってお互いに負担と感じない取り組みを行っていく必要があると思う。児童の健全な成長に向けて学校と保護者、地域とが一体となり、「チーム竜王東小」として、相互の連携のよりよい方向性を模索しながら行い、地域との連携の復活をめざしていく必要がある。

※特記事項 なし

記載責任者（竜王東小学校 学校関係者評価委員）

P T A会長 伊藤 毅 印